

令和七年度入学者選抜学力検査追試験問題

国語

(配点)

1	34点
2	39点
3	27点

(注意事項)

- 1 問題冊子は指示があるまで開かないこと。
- 2 問題は一ページから十八ページまでである。検査開始の合図のあとで確かめること。
- 3 検査中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、静かに手を高く挙げて監督者に知らせること。
- 4 解答用紙に氏名と受験番号を記入し、受験番号と一致したマーク部分を塗りつぶすこと。
- 5 解答には、必ず**HBの黒鉛筆**を使用すること。なお、解答用紙に必要事項が正しく記入されていない場合、または解答用紙に記載してある「マーク部分塗りつぶしの見本」のとおりマーク部分が塗りつぶされていない場合は、解答が無効になることがある。
- 6 一つの解答欄に対して複数のマーク部分を塗りつぶしている場合、または指定された解答欄以外のマーク部分を塗りつぶしている場合は、有効な解答にはならない。
- 7 解答を訂正するときは、きれいに消して、消しくずを残さないこと。

著作権の関係上、非公開 1

この二つの文章を読んで、後の問いに答えよ。

著作権の関係上、非公開

著作権の関係上、非公開

(注1) 後白河法皇Ⅱ平安末期の法皇。 (注2) 今様Ⅱ今様歌のこと。平安中期に起こった新様式の歌謡。

(注3) 莊子Ⅱ中国の思想家、莊子(莊周)の著書。 (注4) 一遍上人Ⅱ鎌倉中期の僧。

(注5) 托鉢Ⅱ仏僧が鉢を持って食物を乞うこと。 (注6) 西行Ⅱ平安後期の僧・歌人。 (注7) 芭蕉Ⅱ江戸前期の俳人。

(注8) 老莊Ⅱ中国の思想家である老子と莊子のこと。その説を信じる者たちを道家と呼ぶ。 (注9) 本居宣長Ⅱ江戸中期の国学者。

(注10) 功利Ⅱ功績と利益を上げること。 (注11) 所作Ⅱ行いや振る舞いのこと。 (注12) 享樂Ⅱ思いのままに快樂を味わうこと。

問1 本文中のカタカナ部分、余力、^①画キ的、^②言キユウ、^③生ガイ、^④の漢字表記として適当なものを、次のアからエまでのの中からそれぞれ一つずつ選べ。

①余力	ア	暇	イ	課	ウ	過	エ	荷	②画キ的	ア	機	イ	期	ウ	基	エ	季
③言キユウ	ア	旧	イ	求	ウ	救	エ	及	④生ガイ	ア	崖	イ	概	ウ	涯	エ	効

問2 本文中の、aからdまでの「ない」のうち、他と異なるものを一つ選べ。

a	知らない	b	とらわれない	c	ものではない	d	思わない
---	------	---	--------	---	--------	---	------

問3 本文中に、^①半ば自嘲的に唱い、苦闘していた。とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から一つ選べ。

ア 世間につながれた生活を送る自分の現状を皮肉りつつも、自らの理想とする、束縛や制約から解放された境地を何とかして実践しようともがいていた。

イ 世俗的な生活を送っている自らの愚かさを冷笑しつつも、現代の人間には平安時代の遊びの境地に到達することができないと気が付いて苦しんでいた。

ウ 年老いて俗世間の生活に染まった自分の現状を軽蔑しつつも、その生き方にどこか誇りをもっているという矛盾を解消しようとはがいていた。

エ 遊びを追求しつづける生活に嫌気が差してしまった自らに苦笑しつつも、子どもが無邪気に遊ぶ姿に嫉妬していることを認めないようあらがっていた。

問4 本文中に、「旅」の深い意味⁽²⁾ とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 「旅」は非日常的な時間を通じて、全ての憂いからの解放を味わうことで、仏教的な悟りの境地に近づくための過程である。

イ 「旅」は日常生活に関わる全てのものを捨てて、最終的には旅の中で死に、己の身すらも捨てることを目的とするものである。

ウ 「旅」は全てをうち捨て、執着する心を断ち切る過程であり、それを通じて何か重要なものに出会うことができるものである。

エ 「旅」に出て自分自身を常に否定し続けることは、仏や菩薩の境地への到達を目指す中国仏教の教えと一致する行為である。

問5 次の一文は、本文の構成上どこに入れるのが正しいか。最も適当なものを「I」中の①から④までの中から一つ選べ。

もちろん日本の「遊び」には、狩猟や詩歌、管弦、舟遊びのような、普通にイメージされるような遊びも含まれている。

問6 「I」の破線部、西欧流の遊びと東洋の遊びとは発想の根本が違^{ちが}う。とあるが、どのような点が違うのか。その説明として最も適当なもの、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 西欧流の遊びは、技術的に優れた人間のみが行えるものだが、東洋の遊びは、仏や神との一体化を目指しており、人間以外の生き物も含めて行えるものである。

イ 西欧流の遊びは、自らの身体の充実を意味しているが、東洋の遊びは、娯楽の要素だけでなく、日常にとらわれた自分を超越していくという意味を含んでいる。

ウ 西欧流の遊びは、自分のみを対象とする個人主義的なものであるが、東洋の遊びは、己の利益を考えないで、他者のために全てを捨て去る利他的なものである。

エ 西欧流の遊びは、肉体の休息という側面のみが重視されるが、東洋の遊びは、肉体面をほとんど考慮せず、ひたすら精神的な鍛錬を積むことを目的としている。

問7 本文中の、ささやかな気晴らしや無為⁽³⁾ と、道家の唱えている「無為の為」のありさま⁽⁴⁾ の「無為」の違いについて述べた、次の説明文の

A、Bに当てはまる表現として最も適当なものを、アからエまでの中からそれぞれ一つずつ選べ。

〈説明文〉⁽³⁾ ささやかな気晴らしや無為の「無為」は、A⁽⁴⁾である。一方、道家の唱えている「無為の為」のありさまの「無為」は

B⁽³⁾を意味している。

ア 緊張を解いて何もしないこと

イ 自他を明確に区別すること

ウ 日常生活を捨て去ること

エ 我を忘れて没頭すること

オ 師匠のもとで修行すること

2

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

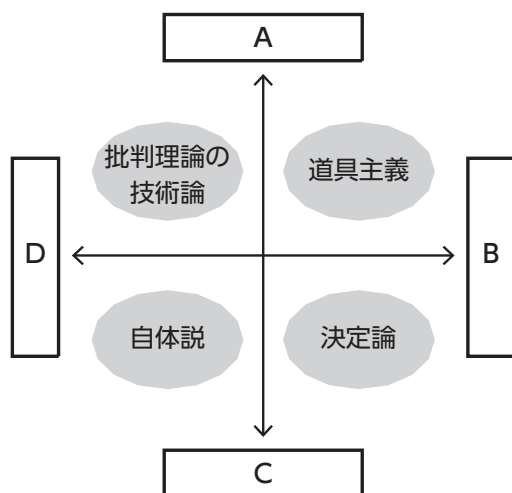


図1 技術論の分類

著作権の関係上、非公開

著作権の関係上、非公開

著作権の関係上、非公開

(注1) マルクス主義Ⅱドイツの哲学者・経済学者であるマルクスが唱えた社会主義思想。(注2) ビッグデータⅡ巨大で複雑なデータの集合。

(注3) ハイデガーⅡドイツの哲学者。(注4) フーコーⅡフランスの哲学者。(注5) マルクーゼⅡアメリカの哲学者。

(注6) ダーウィンⅡイギリスの自然科学者。(注7) ブラックボックスⅡ内部構造やしくみがわからない装置やシステム。

問1 本文中の、抵触する、ナイーブな ^(a) の ^(b) 意味として適当なものを、それぞれ次のアからエまでのの中から一つ選べ。

(a) ア 挑戦する イ 反する ウ 類する エ 依存する

(b) ア 自己中心的な イ 美しく繊細な ウ 素朴で単純な エ 現実的に不可能な

問2 空欄①、②、③に入る語として適当なものを、次のアからエまでのの中からそれぞれ一つずつ選べ。ただし、同じ記号は二回使わない。

ア なぜなら イ たとえば ウ つまり エ しかし

問3 本文中に、テクノクラシー ⁽¹⁾ (技術による政治) を必然的に招く とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から一つ選べ。

ア 技術は自律的に進化しつつ社会に影響を与えるものであり、その進化に伴って、多くの人々が技術的・科学的な判断を他よりよいものだと感じ、政治においてもそうした判断を重視するようになっていくから。

イ 技術そのものに善悪の区別はないが、技術の進歩によって社会は明らかに便利になるので、技術の進歩の恩恵を受けた人たちほど、政治においても技術的・科学的な判断を絶対視するようになっていくから。

ウ 技術は社会構造や人々の意識から大きく影響を受けて変化していくので、技術の進化によって、ビッグデータから抽出された一般意志として認められた内容が政治判断において重視されるようになっていくから。

エ 技術は社会の変化に大きく影響するもので、多くの人たちが技術によって社会を変革したいと考えるようになり、そのような意識の変化を政治の世界においても無視することはできなくなっていくから。

問4 本文中に、技術が価値を決定して方向づけてくる⁽²⁾ とあるが、どういふことか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 技術に対する考え方が更新されることによって、若者の行動に合わせた形に社会制度が変化するということ。

イ 技術が社会でどのように扱われるかによって、技術を持つ人の地位が社会の中で大きく変化するということ。

ウ 社会に新たな技術が導入されることによって、旧来の価値観しか持たない人の居場所がなくなるということ。

エ 社会に新たな技術が生まれることによって、その社会において常識とされることが変わってくるということ。

問5 図1の中の空欄 A 〽 D に入る表現として適当なものを、次のアからエまでの中からそれぞれ一つずつ選べ。

ア コントロール可能 イ 価値付加的 ウ 価値中立 エ コントロール不可能

問6 本文中に、技術の進化も例外ではない⁽³⁾。とあるが、どういふことか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 自然環境の中では変化し続ける世界に偶然適応した生物が生き残るように、技術も偶然によって進化するので、その進化を予測することはできないということ。

イ 何らかの良い目的のために作られた技術であっても、時代の変化によって技術の使われ方が変化するので、技術が悪用されていくことを防げないということ。

ウ ダーウィンの進化論を技術に当てはめようとしても、現実の世界には様々な環境が存在するので、すべての環境に適応する技術を生み出すのは難しいということ。

エ 偶然に生まれるものを活用し技術の進化につなげていくには、多くの資金が必要なので、新しい技術を開発するための計画をあらかじめ立てられないということ。

著作権の関係上、非公開³

問7 本文中に、主体的どころか、私たちの思考は完全に客体化され、逆に技術によって、コントロールされてしまうことになる。⁽⁴⁾とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 技術によって人間の考え自体も変化していくものだが、技術が進化するスピードにいつしか人間がついていけなくなり、技術をコントロールすることを自らあきらめ、技術が自律的に進化するのを見守るだけになってしまうから。

イ 技術によって人間の考え自体も変化していくものだが、AI技術の進化により技術の持つ危険性を心配する必要がなくなるので、人々は技術をコントロールしようと思わなくなり、技術を更に進化させようと考えることさえやめてしまうから。

ウ 技術によって人間の考え自体が変化していく一方で、技術自体の進化に伴って技術の危険性が隠されていき、人間は自らの考えを変えられていることにも気づけず、技術をコントロールしようという気持ちすら持てなくなってしまうから。

エ 技術によって人間の考え自体は変化していく一方で、技術は自律的に進化するもので、今後はそれを積極的にコントロールする人とそれができない人とに分かれていき、技術に対する考え方で社会が分断されてしまうから。

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

著作権の関係上、非公開

著作権の関係上、非公開

著作権の関係上、非公開

著作権の関係上、非公開

(注1) 自己啓発は本人の意志で自分の精神や能力の成長を目指して行動すること。自己啓発本はその手段を記した書物。
(注2) 轍は車が通ったあとに残る車輪の跡。

問1 本文中の、在りし日を追懐する、物心ついて^(a) の意味として最も適当なものを、次のアからエまでのの中からそれぞれ一つずつ選べ。^(b)

(a) ア 生前の姿をなつかしく思い出す

イ 以前の暮らしを取り戻したいと望む

ウ かつてあった出来事を改めて追及する

エ 心に秘めていた感情を呼び起こす

(b) ア 世間体を次第に気にするようになって

イ 世間の裏側を知る年頃になって

ウ 世の中のことがわかるようになって

エ 世の中を自分で渡る年頃になって

問2 本文中に、みんなが通ったあとにできる轍はあっても、レールはない。⁽¹⁾とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から一つ選べ。

ア 他人の進路をうらやむことがあっても、今の道を後悔しなくてよいということ。

イ 先人の偉大な業績はあっても、成功するうえで参考にできる実例はないということ。

ウ 多くの人が望む未来があっても、そこにつながる道は誰も通れないということ。

エ 他人の人が実践した前例はあっても、自分が進むよう定められた道はないということ。

問3 本文中に、「それで――」⁽²⁾と、おっとりした口調で言った。とあるが、静子がこうしたのはなぜか。その理由として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から一つ選べ。

ア 珠美の不安を感じ取り、珠美の抱えている事情を細かく聞き取って、少しでも的確にアドバイスしようとしたから。

イ 珠美が実は無理をしていることがわかって、少しでも珠美を勇気づけてあげるため、使う言葉を選ぼうとしたから。

ウ 珠美に何かがあったことを察して、少しでも言い出しやすいように、珠美が話し出すきっかけを作ろうとしたから。

エ 珠美が自分に甘えたいのだと知って、遠慮しなくていいと伝えるために、できるだけ穏やかに接しようとしたから。

問4 本文中に、わたしも、なんとなく口を閉じたままだった。⁽³⁾とあるが、ここでの珠美の説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 美しい写メを送られたタイミングの良さに思わず祖母に電話をかけ、昨晚のことを話す気はなかったのに、祖母の優しい問いかけに触れて胸がいっぱいになってしまい、できるだけ明るくよそおいつつ昨晚のことを伝えて、祖母の返事を待っている。

イ 写メを送られたことがきっかけで、昨晚のつらい出来事を聞いてほしくて祖母に電話をした後、何となく言い出せなかった自分に対して、優しく尋ねてくれた祖母の気遣いに感動し、何とか元氣な振りをして話した後、何も言えなくなっている。

ウ 電話をかければ祖母が何か言ってくれるかもしれないと思っていたが、自分が口に出さなくても何かあったことを察して優しく尋ねてくれた祖母に対して、感謝の気持ちと甘えたい気持ちが同時にあふれ、話し終わった後で少し困惑している。

エ 昨晚の話をする気はないまま祖母に電話をかけたのに、祖母の穏やかな問いかけに誘われて、昨晚あった友人との出来事と内心の不安まで包み隠さず口に出してしまい、話すつもりは全くなかった愚痴をこぼしたことを恥ずかしく思っている。

問5 本文中に、おじいちゃんって、篤農家だったんでしょ？⁽⁴⁾とあるが、ここで珠美が祖父のことを尋ねたのはなぜか。その理由として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 祖父が母に語った言葉が自分の読んだ文章とあまりに似ていて、祖父の職業について詳しく知りたくなったから。

イ 周囲の視線を気にせず農業だけに一生懸命だった祖父の姿に、自分もその頑固さを見習うべきだと感じたから。

ウ 祖父が自分のように困難な状況に直面してくじけそうになったことはないか、祖母に確かめてみたくなったから。

エ 今の自分が始めようとしている仕事への思いと、地域で農業に力を尽くした祖父の姿勢に通じるものを感じたから。
問6 本文中に、おじいちゃん(5)が絵美に言ってた言葉と、よく似てるよ。とあるが、どういう点が似ているのか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 自分を信じて仕事を進めていけば、必ず自分を評価してくれる人が現れるからその時の感謝が重要だという点。

イ 自分以外の人のことを気にかけるよりも、自分自身が大事だと信じる行いを貫いていくことが重要だという点。

ウ 自分以外の誰も、自分のしている仕事に満足するはずはないから、結局自分を大切にするのが重要だという点。

エ 自分の考えを他人に理解してもらえない望みは薄いから、自分自身の努力を継続していくことが重要だという点。

問7 本文の情景描写について話し合っている次の会話文の I に当てはまるものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

生徒1 お別れ会の日は天気が悪かったのに、次の日はいい天気だね。本文に「昨夜のみぞれはいつの間にかあがっていて、空には透明感のある水色が広がっている。」とあるよ。

生徒2 きっと青空だね。ひと眠りして、主人公の気持ちが落ち着いたことも関係しているのかな。

生徒3 最後の部分にも「わたしは窓の外の清々しい青空を見上げた。」とあるから、そうかもね。

生徒1 確かに主人公の心理と関係ありそうだね。ただ寝て起きたから気持ち晴れただけでもなさそう。祖母からもメールが届いて、「冬枯れした庭の梅の枝先についた雨滴が、朝日を浴びてきらめいている写真だ。」なんて、印象的だね。

生徒2 そういえば、その前の部分で主人公は「母が天国からメッセージをくれたような」と言っているね。晴れ上がった空から景色を照らす、朝日の輝きも重要なかもしれないね。

生徒3 そうか、そう考えると、アパートの部屋の中だけど「わたしは壁際に積み上がっている段ボール箱の山を見た。その山に朝日が当たっていて、なんだかちょっと神秘的な感じがした。」の部分も意味深な気がする。物はダンボール箱だけど、何だか本当の山に朝日の光が当たっているみたいにも読めるね。神々しいというか。

生徒1 主人公は、I んじゃないかな。最後に主人公が「清々しい青空を見上げ」ている姿を書くことで、そういう心理とつながる描写なのかもしれないね。

ア 祖父母の存在や母の言葉に勇気づけられて、ようやく晴れ晴れとした気分になれた

イ 自分の世界をいつも明るく照らしてくれる太陽の光に、心から感謝したくなった

ウ 亡くなった母や祖父が、地上の祖母と一緒に自分を導いてくれたように感じた

エ みぞれから晴天へという天候の変化が、自分の成長を証明してくれたように感じた

